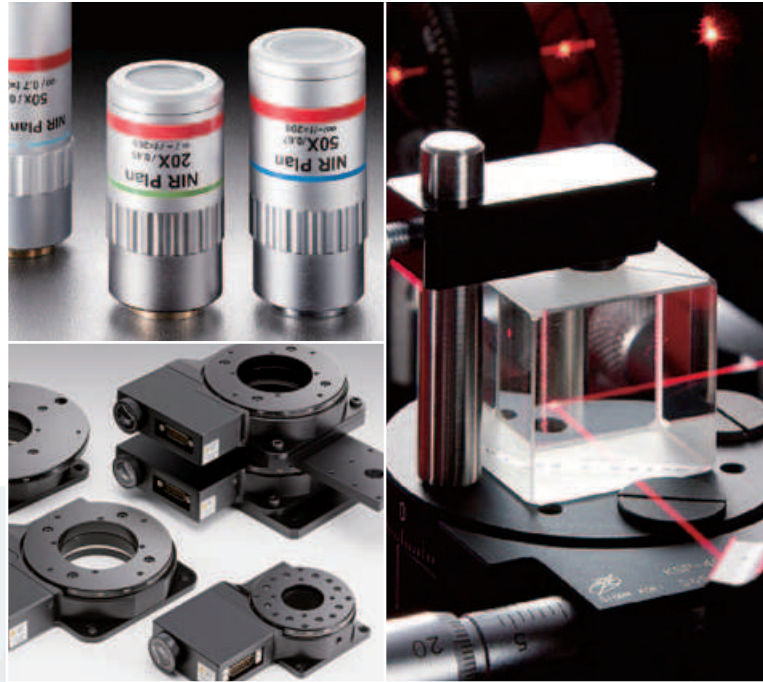


第40期 報告書

2014年6月1日 ▶ 2015年5月31日



Contents

- 株主の皆様へ
- 事業の概況
- セグメント別の概況
- 業績見通し
- シグマ光機の技術
- トピックス
- 株主様アンケート
- 社会貢献活動
- 連結財務諸表
- 株式の状況／会社概要

Light Solutions for Life®

「Light Solutions for Life」とは、皆様の「暮らし」の様々な分野を、光技術の弛まぬ革新と価値ある製品・ソリューションの提供で支えていくという、シグマ光機グループの「事業姿勢」を表現しています。

私たちシグマ光機グループの夢は、未来に光る「ものづくり」を通じて社会に広く貢献していくことです。

経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

「感謝」「挑戦」「創出」

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちシグマ光機グループの使命は、無限の可能性のある「光」に、未来が求める「形」をどこよりも早く与える「ものづくり」を通じて、社会に広く貢献していくことです。

その私たちの事業姿勢を表すものとして、ブランド・ステートメント「Light Solutions for Life®」を掲げ、社会・お客様に価値ある製品・ソリューションをご提供することをお約束しています。

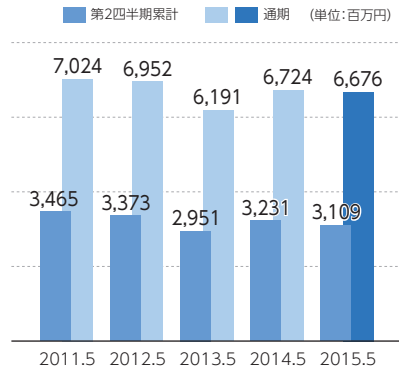
今後ますます発展が期待されるレーザ関連業界において、私たちは光ソリューション・カンパニーとして「感謝」「挑戦」「創出」の想いを胸に、弛まぬ技術革新と価値ある製品・ソリューションの提供、そして成長戦略の着実な遂行によって、持続的な成長と企業価値の最大化に邁進する所存でございますので、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

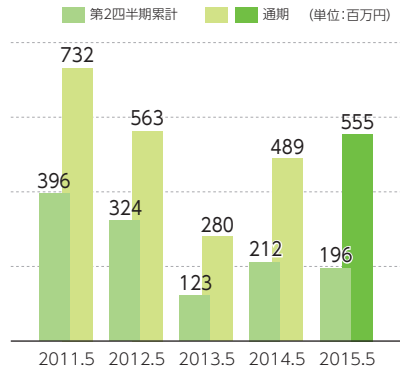
代表取締役社長 **近藤 洋介**

2015年5月期業績（連結）

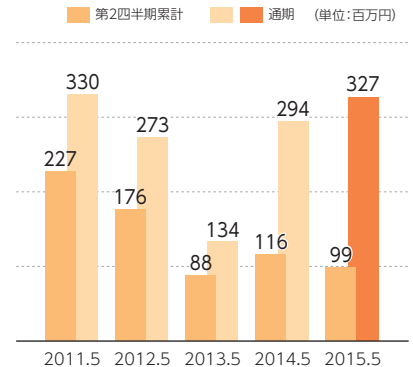
売上高 66億76百万円
(前年同期比 0.7%減)



経常利益 5億55百万円
(前年同期比 13.5%増)



連結当期(四半期)純利益 3億27百万円
(前年同期比 11.0%増)



2015年5月期決算（連結）のポイント

●長引く投資抑制の影響により国内市場の需要は回復途上

当期は、緩やかな景気の回復傾向にあった米国・欧州市場や一部を除くアジア市場については堅調に推移いたしました。長引く設備投資・研究開発投資の抑制傾向が未だに残る国内市場での需要は若干弱含みとなりました。マーケット別では、大学・国立研究開発法人向け研究開発分野やスマートフォン関連の産業分野などは堅調でしたが、産業分野での研究開発投資の抑制傾向の影響を受け、前年同期比で小幅ながら減収となりました。

●生産効率化等の原価低減施策の徹底により利益率が改善

当期は、グローバル市場向けのカatalog製品の拡充等を展開しつつ、レンズユニット等の内製化や規格品・量産品の工程圧縮、仕入原価の精査等の原価低減施策を推進した結果、売上総利益率が向上いたしました。また、生産・販売・開発が連携した営業展開や新規製品開発により試験研究費は増加いたしました。継続して販売管理費の抑制を推進した結果、連結では営業利益・経常利益・当期純利益ともに前年同期比で増益となりました。

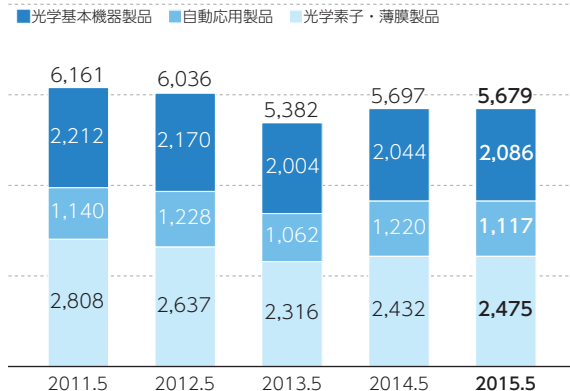
03 セグメント別の概況

2015年5月期セグメント別概況（連結）

▶ 要素部品事業

■ 売上高

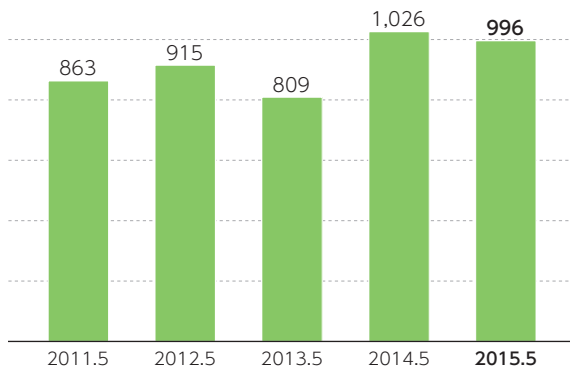
(単位：百万円)



▶ システム製品事業

■ 売上高

(単位：百万円)



0.3% 減

(前年同期比 1千8百万円減)

大学・国立研究開発法人向け研究開発分野は、若干弱含みで推移いたしました。また、民間向け研究開発分野及び産業分野は、スマートフォンに関連する半導体・FPD業界向けのレーザ加工機や検査装置への組み込み用途の光学基本機器製品及び光学素子製品は堅調に推移するも、自動位置決め製品は低調に推移いたしました。また、米国地域のバイオ・医療業界向けならびに欧州地域の研究開発分野及び産業分野向けの需要が増加いたしました。



2.9% 減

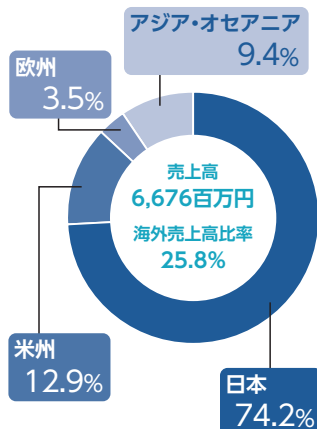
(前年同期比 3千万円減)

大学・国立研究開発法人向け研究開発分野は、やや低調に推移いたしました。国内の産業分野は全体として弱含みで推移いたしました。民間向け研究開発分野は、光学ユニット製品及び光学測定・分析装置の需要は堅調ですが、バイオ業界向けは組み込み用途の光学ユニット製品は低調に推移いたしました。民間向け産業分野は、国内・アジア地域のスマートフォンに関連する半導体・FPD業界向けユニット製品の需要が横ばいで推移いたしました。



2015年5月期顧客所在地別概況（連結）

海外売上高構成比



所在地別セグメント業績

日本	売上高 4,956 百万円	当期の営業概況： 輸出関連企業的好調な業績等を背景に全体的に緩やかな回復基調で推移しており、設備投資に改善傾向が見られますが、研究開発投資については若干弱含みで推移しました。
米州	売上高 858 百万円	当期の営業概況： 雇用環境の改善と個人消費の増加等の底堅い内需を背景とした緩やかな回復基調を受けて、バイオ業界や医療業界向けの組み込み用途の光学要素部品の大口案件などが寄与しました。
欧州	売上高 232 百万円	当期の営業概況： 失業率は依然高い水準ながらも、ユーロ安を背景に輸出関連企業を中心に景況感の改善の兆しが見える中、教育機関・公的機関等の研究開発投資を取り込み、売上は増加しました。
アジア・オセアニア	売上高 626 百万円	当期の営業概況： 中国での内需の減速傾向、韓国のウォン高による輸出低迷等、総じてアジアの経済成長は鈍化傾向にありますが、スマートフォン関連業界の需要を取り込み横ばいで推移しました。

業績見通し | 04

2016年5月期業績（連結）の見通し

●更なる利益体質への転換を図り持続的な成長を目指す

当社グループでは、付加価値の高い提案と新製品の開発・早期市場投入を更に強化し、既存市場の掘り起こしや新たな市場への参入を図るとともに、グローバルブランド「OptoSigma®」の認知度向上を推進し、海外市場での営業力を強化いたします。また、重点製品の内製化や生産工程の圧縮、新生産技術の開発等の生産体制の合理化・効率化と購買体制の強化により、品質向上、短納期化、コストダウンを更に推進し、収益力の向上に全力を挙げて取り組んでまいります。

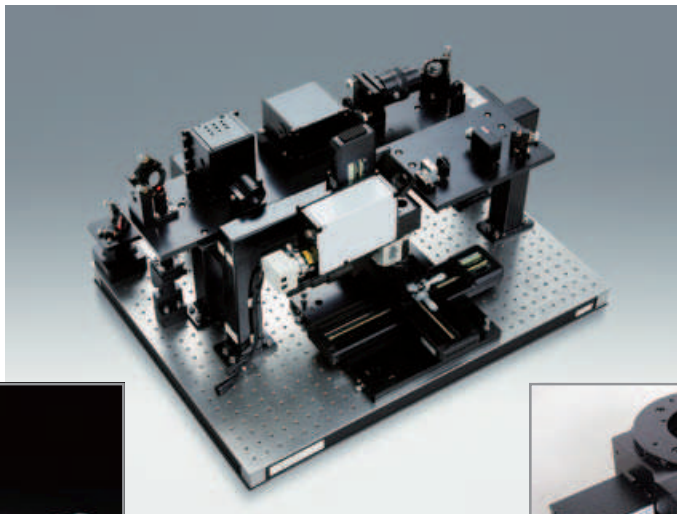
売上高	72億7千万円	(前期比8.9%増)
営業利益	5億5千5百万円	(前期比27.6%増)
経常利益	6億6千5百万円	(前期比19.7%増)
当期純利益	4億1千5百万円	(前期比26.9%増)

●レーザ加工・検査・計測

赤外線レーザの高出力化による金属の切断や溶接から始まったレーザ加工技術は、様々な波長のレーザ実用化により、スマートフォン用ガラスパネルの精密切断やMEMS部品の立体造形など、サブミクロン・ナノメートルレベルの微細加工を可能にしました。それに伴いレーザ集光性能、観察・計測技術、位置決め精度の更なる高精度化が求められています。



オートフォーカスユニット



レーザ
プロセッシング
システム



●光学設計・生産技術

最先端の要求を実現してきた高度な光学設計ノウハウと生産技術、自社一貫生産による品質管理体制



●自動位置・姿勢決め技術

タクト短縮と高精度化を両立する高剛性の自動位置決めステージシリーズ

▶▶ 新技術開発進捗

●マシンビジョン&対物レンズ製品開発



▲高解像度テレセントリックレンズ

▼各種対物レンズ



各種検査及び画像処理用途に適したマシンビジョン関連製品の開発を強化しております。

光学設計、機械加工、組立・調整等の当社の中核技術を融合し、観察用スポット照明、混色ユニットから同軸観察光学系製品や高解像度テレセントリックレンズ製品等を開発、カタログにラインナップすると同時に、ワンストップ生産による短納期・低コストを実現いたしました。

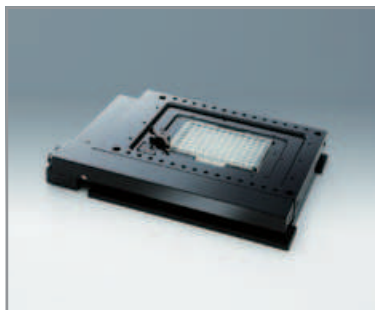
また、レーザ加工・測定・検査用途に需要が高い対物レンズを製品化し、倍率・適応波長・NA・作動距離等の多様なニーズに対応した多品種をラインナップしております。

● バイオフォトリクス

光学技術を生物学・医学研究に応用する「バイオフォトリクス」は、比較的歴史の浅い学問領域ですが近年急速な発展を見せえています。特にレーザー光が利用され始めてから、生体で1分子レベルの観察や1分子レベルのマニピュレーションが可能になり、再生医療やDDS（ドラッグ・デリバリー・システム）等の基礎研究から臨床研究まで応用範囲が広がっています。

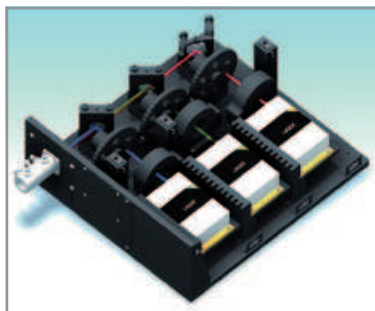


光ピンセットMini



● 位置決め技術

ナノメートルレベルで位置決め可能な顕微鏡用自動ステージ



● 光学設計技術

赤外レーザー誘起遺伝子発現操作法やレーザーマニピュレーションシステムなど、様々な研究内容に対応するレーザー導入光学系

▶▶ 新製品情報



▲C型ステンレスミラーホルダー
(高分解能・2方向透過・省スペースを実現)

▼「お客様の欲しいを形に」製品群
(高接近性と使いやすさを兼備。微細な調整が可能)



当社グループは、ものづくり企業として、「より高精度な製品を、より早く、より安く」提供するとともに、「使いやすさ」等の数値では表れない性能面でもご満足いただくことを目指しております。

創業以来積み重ねてきた最先端の研究・開発機関との信頼関係を基に、お客様とともに製品を創り込み、新たな価値を創出する、「お客様の欲しいを形に」活動を積極的に推進しています。

●世界に広がる「OptoSigma®」ブランド



LASER World of PHOTONICS
Munich 2015

SPIE PHOTONICS WEST 2015



上海西格玛光机有限公司

シグマ光機株式会社



LASER World of PHOTONICS China 2015



技術講演会



プライベート展示会

》グループ会社概況



本年7月に設立20周年を迎え、米国、カナダ、ならびにブラジルを基点とした中南米市場への「OptoSigma®」ブランドの浸透に注力しております。掲載する製品数と情報量が増したGlobal Websiteを活用し、各国の大学・研究機関や、成長著しいバイオ・メディカル等の産業界へ、高品質・高付加価値製品を提供しております。



2013年12月に、欧州におけるマーケットシェア拡大、「OptoSigma®」ブランドの認知度向上、商流及び物流の整備・拡充を主な目的として設立されました。お客様の近くにいることによって、より高度なソリューション提案及び技術サポートが可能となり、ブランド認知度も向上し、研究開発・産業界からの引き合いが増加しております。



インフレ著しい中国で、生産工場の命題である『生産性の向上とコストの低減』に取り組んでおります。そのような取り組みが実を結び、品質ならびにコスト要求が厳しいOEM製品、部品の生産割合が増えてきました。これからはグループの生産拠点の一つとして、期待される役割を全うできるよう生産技術と生産効率の向上に努めてまいります。

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

第40期中間報告書で実施させていただきましたアンケートにつきまして、全株主様3,578名の約2%に相当する74名の株主様よりご回答をいただきました。お寄せいただきましたご意見・ご要望は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。今後とも株主様とのより良いコミュニケーションの実現を目指して、事業報告（株主通信）の紙面の充実を図ってまいりますので、変わらぬご協力とご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

株主様からのご意見

Q 利益率の向上策や方針について

A 当社グループでは、更なる利益率の向上のために、重点製品の内製化や生産工程の圧縮、新生産技術の開発による生産効率向上を図るとともに、海外調達を含む購買力の強化を推進し、継続的に原価低減策に取り組んでおります。なお、生販連携での営業展開や新製品開発力の強化などにより試験研究費などは増加いたしました。付加価値の高い提案と新製品の開発・早期市場投入によって収益性を高め、今後も更なる利益率の向上に取り組んでまいります。

Q 新興国市場への取り組みについて

A 当社グループでは、欧州、中東、東南アジア、南米等の新興国の成長市場での事業展開を加速してまいります。海外の主要な光学展示会への出展により「光学技術」「機械技術」「制御技術」「システム化技術」という中核技術をアピールして、ブランド認知度の向上を図っております。また、冊子・ウェブのグローバル・カタログの充実や現地販売代理店網の整備・拡充により、光研究・開発用製品から産業分野用の組み込み用途まで、新規市場開拓を推進してまいります。

社会貢献活動 | 08

当社では、東京大学などの大学間連携や大手光学関連企業が講師となる大学院教育プログラムの「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム（CORAL）」をはじめ企業や大学・自治体と連携した「レーザー安全セミナー」の開催等により、光科学分野の人材育成と光技術の発展に寄与しています。また、地域貢献活動の一環として、科学のおもしろさや驚きを体験してもらう『光の寺小屋（出張科学教室）』を展開し、次世代を担う子どもたちに「科学する心」の大切さを伝えています。



光の寺小屋



CORAL

Light Solutions
forLife®

レーザー安全セミナー

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2015年5月31日現在	2014年5月31日現在
(資産の部)		
流動資産	7,428	6,964
固定資産	6,537	6,662
有形固定資産	2,952	2,971
無形固定資産	217	247
投資その他の資産	3,367	3,443
資産合計	13,966	13,627
(負債の部)		
流動負債	1,505	1,586
固定負債	951	917
負債合計	2,456	2,503
(純資産の部)		
株主資本	11,055	10,992
その他の包括利益累計額	406	92
少数株主持分	48	38
純資産合計	11,510	11,123
負債・純資産合計	13,966	13,627

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2014年6月 1日から 2015年5月31日まで	2013年6月 1日から 2014年5月31日まで
売上高	6,676	6,724
売上原価	4,052	4,218
売上総利益	2,623	2,506
販売費及び一般管理費	2,188	2,145
営業利益	435	360
経常利益	555	489
当期純利益	327	294

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期
	2014年6月 1日から 2015年5月31日まで	2013年6月 1日から 2014年5月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	435	1,005
投資活動による キャッシュ・フロー	△209	△145
財務活動による キャッシュ・フロー	△185	△125
現金及び現金同等物に 係る換算差額	124	55
現金及び現金同等物の 増減額	165	790
現金及び現金同等物の 期首残高	2,450	1,660
現金及び現金同等物の 期末残高	2,616	2,450

》 解 説 ポ イ ン ト

● 連結貸借対照表

<資産の変動>

流動資産は、現金及び預金が1億1千7百万円、棚卸資産が2億5千3百万円増加したことにより前期末比6.7%増加いたしました。固定資産は、投資有価証券が8千4百万円増加、建物及び構築物が4千1百万円、繰延税金資産が5千8百万円、投資不動産が6千万円減少したことにより前期末比1.9%減少いたしました。

<負債の変動>

流動負債は、支払手形及び買掛金が4千8百万円、短期借入金が5千3百万円増加、未払法人税等が1億4千8百万円減少したことにより前期末比5.1%減少いたしました。固定負債は、退職給付に係る負債が7千2百万円、固定資産の「その他」が1億5千7百万円増加、役員退職慰労引当金が1億8千3百万円減少したことにより、前期末比3.7%増加いたしました。

<純資産の変動>

純資産は、前期末比で3.5%増加し、自己資本比率は82.1%となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当期の現金及び現金同等物の期末残高は26億1千6百万円となり、前期末比1億6千5百万円の増加となりました。

営業CFは、主に税金等調整前当期純利益、減価償却費、仕入債務の増額により増加し、棚卸資産の増額、法人税の支払い等により減少いたしました。

投資CFは、有形・無形固定資産の取得による支出で減少いたしました。

財務CFは、主に借入による資金の純増加により増加し、配当金の支払いにより減少いたしました。

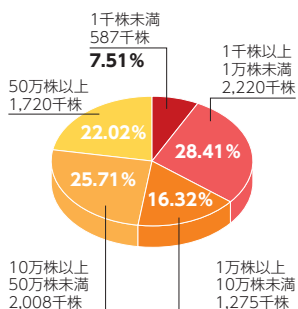
■ 株式の状況 (2015年5月31日現在)

- ①発行可能株式総数 32,000,000株
 ②発行済株式の総数 7,811,728株
 ③株主数 3,844名
 (前期末比448名増)
 ④主要株主

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	13.27
森 聡二	720	9.56
シグマ光機取引先持株会	423	5.62
シグマ光機従業員持株会	244	3.24
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.69
富国生命保険相互会社	200	2.65
株式会社サンライズクリエート	164	2.18
竹田本社株式会社	152	2.02
杉山大樹	131	1.74
株式会社三井住友銀行	110	1.46

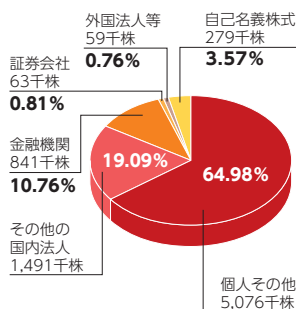
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 持株比率は、自己名義株式 (279,328株) を控除して計算しております。

所有株数別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 自己名義株式 (279千株) を含んでおります。

所有者別株式分布状況



■ 会社概要 (2015年8月27日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年 (昭和52年) 4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	333名 (2015年5月31日現在)
役員	代表取締役会長 森 聡二 代表取締役社長 近 藤 洋 介 取締役 菊 池 健 夫 取締役 中 村 良 二 取締役 大 野 昭 夫 取締役 小 林 祐 二 常勤監査役 山 口 秀 一 監査役 大 野 隆 久 監査役 野 崎 昭 司

- (注) 1. 大野昭夫氏及び小林祐二氏の2氏は社外取締役であります。
 2. 社外取締役 大野昭夫氏は、独立役員であります。
 3. 大野隆久氏及び野崎昭司氏の2氏は社外監査役であります。

❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

文字使用例
(従来)

(今回)

S36 S36

株主メモ


事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。


株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。


ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **7713**

いいかぶ

検索

 空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からも アクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

 **シグマ光機株式会社**
東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

 UD
FONT

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C013080

 VEGETABLE
OIL INK